IFRC CBRN ワークショップに参加して

災害医療支援部（名古屋第二赤十字病院）　駒井一洋

2016年12月5日から9日までオーストリア ウィーンにて、国際赤十字社赤新月社連盟（以下IFRC）とオーストリア赤十字社により、「CBRN 緊急事態における事前対策ワークショップ」が開催された。自分は日本赤十字社本社 救護福祉部赤十字原子力災害情報センターの藤巻三洋氏と共に、本ワークショップに参加する機会を得たので報告する。

【背景】

福島第一原子力発電所事故を受け、各国赤十字・赤新月社は2011年11月に開催された第18回IFRC総会において「原子力事故による人道的影響に関する決議」を採択した。この決議の目的は、放射線／原子力災害への備えと対応を強化するためにIFRCおよび各国赤十字赤新月社の知識と能力を向上させること、そして原子力災害時／災害後における人道的影響に対処するための能力を増強させることであった。

IFRCは各国赤十字・赤新月社の支援のもと2015年10月、「原子力・放射線災害における事前対策及び応急対応ガイドライン」（以下ガイドライン）を作成。今回の「CBRN 緊急事態における事前対策ワークショップ」は、当ガイドラインを基盤として企画された。

【目的】

今回のワークショップの目的はガイドラインの普及と、各国赤十字・赤新月社からの参加者に、実践的な情報及びノウハウを提供することであり、以下の事項等を最終的なゴールとしている。

- 各国赤十字・赤新月社が、行政当局から割り当てられた任務に基づき、CBRN緊急事態対応計画を作成できる。
- CBRN緊急事態における、各国赤十字・赤新月社の役割の政治的枠組みを理解する。

オーストリア赤十字社本社

- CBRN の危険性と影響の規模を予測し、人道的影響とニーズの評価方法について認識できる。
- CBRN 災害に対応するスタッフおよびボランティアを保護するための義務および責務、ならびに各国赤十字・赤新月社が実行できる／実行すべき防護措置について認識できる。
- CBRN 緊急事態対応計画の作成時および対応時における、国内外のその他の当事者の役割について理解できる。

【概要】

ガイドラインは、IFRC および各国赤十字・赤新月社が、化学・生物・放射線・原子力（Chemical Biological Radiological Nuclear - CBRN）災害に対応するシステムを構築するための必須事項を網羅しており、それを基盤とする今回のワークショップの参加対象者は、各国赤十字・赤新月社における災害対応の専門家、あるいはこれから原子力災害の対応プログラムを構築しようとする立場にある方々で、17 の赤十字・赤新月社から 31 名が集まった（別図 1）。

研修風景

別図 2に本ワークショップのプログラムを示す。放射線・原子力に関する基礎的な知識から、災害時対応、リスク・コミュニケーションまで、原子力災害に関する幅広い知識とノウハウを網羅している。オーストリアの関係省庁（日本でいう原子力規制庁）と国際原子力機関（IAEA）を訪問して各組織の役割を伺うプログラムも含まれていた。別図 2の各プログラム項目をクリックすると資料が表示されるので、興味のある方はご覧いただきたい。

IAEA での講義

日本からは本社の藤巻氏と自分が参加したが、二人にはワークショップに参加すること以外にも役割があった。それは日本赤十字社が現在行っている原子力災害対策について、そして福島の現状について報告することであった（プログラム No.4）。二人で 1 時間半の時間枠をいただき、藤巻氏は日本赤十字社の原子力災害対策についての全体像を、自分は現在進行中である原子力災害対応基礎研修会の内容と福島の現状について述べた。報告後には 20 分以上質問が続き、参加者の関心の高さがうかがえた。

【印象】

非常に詳細な研修内容が丁寧に進められており、各赤十字・赤新月社が CBRN 緊急事態対応計画を構築する手がかりとしてふさわしいものと感じた。しかしながら人体に対するスクリーニングのデモンストレーションでは、被災者一人の測定に時間がかかりすぎていたし、汚染した車両の除染に大量の水を使うなど、原発事故を経験した私たちの目には非現実的に映る部分もあり、今後も日本赤十字社が国際的に原子力災害対応のリーダーシップをとる必要があると感じた。

日赤の活動について講演する本社藤巻氏

【最後に】

日本赤十字社診療放射線技師会 災害医療支援部は、日本赤十字社の原子力災害対応活動に早くから関わっており、今まで全国の赤十字病院への線量計の配備、原子力災害対応基礎研修会の運営などを本社と共に進めてきた。そして次のステップの一つとして、海外での活動の可能性が今、示されているわけである。この可能性は災害医療支援部や日赤技師会だけのものではなく、広く会員の皆様全員に向けられている。原子力災害により一層の関心をお持ちいただき、知見を広め、今後とも日本赤十字診療放射線技師会および災害医療支援部へのご支援、ご協力をお願いしたい。

スクリーニングのデモ
スクリーニングレベルは
B.G.の３倍